

足立区長賞

「生活保護受給について」

足立区立 扇中学校

三年 中村 蒼乃

税金で一番初めに思い出すのは、消費税だ。その中でも最近、生活保護について家族で話す機会があった。私の親は医療機関に勤めていて、そして数年前曾祖父母が年齢、体の状態も悪くなってしまったので生活保護を受けることになった。その時の話を母が悲しそうに話していた。

曾祖父母は何十年も前から母の勤めている病院に通院している。ある日、曾祖父母から連絡が入り自分たちが生活保護を受けることになったと謝られた。「なんで謝るの？今まで頑張ってるのに。頑張って来た人だから何も恥ずかしいことじゃない」と母は答えていた。電話が終わり話を聞いてみると、生活保護を受けて病院に行くと、母に恥をかかせてしまうのではないかと。それでも通院してよいか確認してきたという。私は何故そのような電話をしてきたのかよくわからなかった。生活保護は歳をとって働けなくなったら受けられるものだと思っていたからだ。不思議に思い少しスマートフォンで調べてみた。年齢関係なく身体的に病気があり働けない人や、低収入の人など条件は色々あるようだが思っていたより受給できることがわかった。

もう一つ疑問に思ったことは、何故生活保護を受けて恥を

かかせてしまうと思ったのか。母によると、不正に生活保護を受けている人もいて施設によって生活保護というだけで疑いの目で見たり、冷たくする人もいるからだという。そして、家族や友人に生活保護を受給してもらい薬を無料で上限まで処方してもらって周りの人に配っている人もいるという。そんな人もいるんだと驚いたのと、本当に生活が苦しく働きたくても働けない人がそんな人と同じ扱いや目で見られているのがとてもかわいそうに思えた。もう少し本当に受給が必要なのかどうか調べてほしいと思った。

私の曾祖父母は70歳頃までお店をやっていてそのあとも5年間はスーパーに勤めていた。定年で収入もなくなり悩んだ結果生活保護を受けることになったそうだ。その際も、「人様のお金で生活するのは申し訳ない」と言っていたそうだ。私はその話を聞いて何十年も働いてきた曾祖父母にもっと堂々と暮らしてほしいと思った。

きっと他にもそんなふうに肩身の狭い思いをしながら申し訳なさそうに暮らしている人が世の中に沢山いると思う。

家族とそんな話をしている、全ての税金の使い道はわからないが、本当に困っている人の為に税金を使ってもらいたいと思った。私も社会に出て稼げるようになったら、人のために働いている公務員や、困っている人・地域の為に税を納め、更に誰かの役に立つようなお金の使い方をしたい。